

# 富士山と自然観察記録(俳句集-I)

*Mt. Fuji and Nature Observation,*

*HAIKU Collection by 2014*

岩崎行伸\*

東海大海洋をリタイア後、呆け防止策と自己満足のために趣味活動として、四季折々の富士山と自然界の観察記録によるデジカメ映像記録を個展として発表しようと、各所の展示場や博物館等を探した。ところが、各所で10点(A4版)展示するのに場所代として25~30万円用意するという。

年金生活者フリーターにとっては、大金であるため各所を探したところ、Yahoo blog が写真付き無料(会員月3000円)で投稿できるということであり、2014年から、My blog 創設し確保した。時折、四季彩々の景観や生きものたち(野鳥(水鳥)・蝶・蜻蛉・淡水魚たちの観察)記録を俳句を詠んだものを、この機会に纏めたものである。

## 俳句集-I(2014-春)

第1440号(5/19):霞富士、今日は久々、晴れ間見る。

第1444号(5/22:春うらら、せど裏山に、燕鳴く。

第1436号(5/26):早朝に、鶯の鳴き、眼が覚める。

第1439(5/29):散歩中、せど裏山に、霞富士。

第1440号(5/30:鶯の、囀り響く、郷の森。

第1442号(16/2):熟れた枇杷、せど裏山に、垂れ下る。

第1446号(6/6):池石に、シオカラトンボ、ひと休み。

第1447号(6/7):清流の、川石には、カワトンボ。

第1448号(6/9):春過ぎて、梅雨入りの、空模様。

第1450号(6/11):興津川、鮎解禁に、太公望。

第1451号(6/12):清流で、カワトンボや鶺鴒、何想う。

第1452号(6/13):新緑の、満開近し、ヤマツツジ。

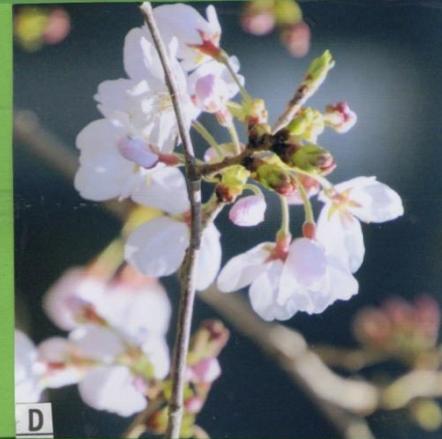
第1453号(6/14):遊水に、池に赤咲く、スイトピー。

第1454号(6/16):子供らが、タモ網もって、川遊び。

第1455号(6/17)梅雨曇り、富士の高峰は、雲の中。

# 特別号外:Field Watching

## (I):富士山と自然観察記録



A: 富士山 (春), B: 白梅, C: 桜の開花、

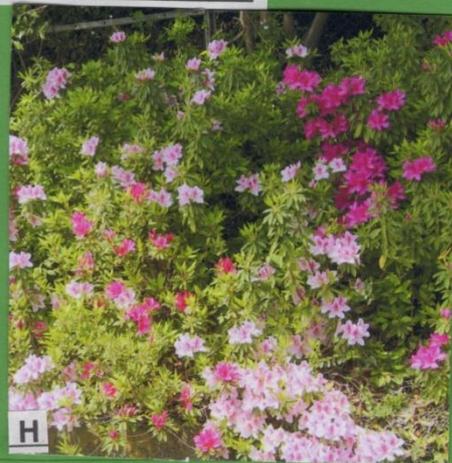
D: 染井吉野桜 E: 白木蓮, F: 新茶葉、

Photo by Y. Iwasaki

- 第1456号(6/17):春霞、富士山は今日、晴れている。
- 第1457号(6/18):里山の、水辺アオサギ、何に想う。
- 第1457号(6/19):新茶葉の、彩と香りは、癒し素。
- 第1457号(6/19):赤とんぼ、枝の先にて、ひと休み。
- 第1458号(6/20):梅雨晴れの、ソメイヨシノ葉、風に揺れ。
- 第1458号(6/21):すくすくと、育ち盛りの、孟宗竹。
- 第1459号(6/21)梅雨晴れて、遊水の池、ユリとバラ。
- 第1459号(6/21):梅雨の間に、富士の高峰に、残る雪。
- 第1460号(6/23):梅雨晴れて、せど裏に見る、富士の雪。
- 第1461号(6/24)梅雨曇り、清水港は、雲の中。
- 第1462号(6/25):朝散歩、せどのお山に、霞み富士。
- 第1462号(6/25):新緑に、朝散歩、せど裏山に、茶の香り。
- 第1462号(6/25):雨上がり、梅雨は何処へ、いったやら。
- 第1463号(6/27):水辺には、生きものたちの、棲家あり。
- 第1463号(6/27):赤トンボ、大石の上、ひと休み。
- 第1464号(6/28):清流の、棲家の宿に、テナガエビ。
- 第1465号(6/28):枝先に、止まる一種、赤トンボ。
- 第1466号(6/30):富士の山、日本一から、世界財。
- 第1467号(7/1):昼散歩、せど裏山に、新茶彩。
- 第1467号(7/1):赤トンボ、枝に止まって、何想う。
- 第1468号(7/2):梅雨の間に、せど裏山に、アゲハ舞う。
- 第1468号(7/2):朝散歩、せど裏山の、日の出彩。
- 第1469号(7/3):朝散歩、梅雨晴れの間、日の出どき。
- 第1469号(7/3):清流の、大石の上、カワトンボ。
- 第1470号(7/4)梅雨の間の、せど裏山に、初夏の彩。
- 第1470号(7/4):大石に、止まる一種、赤トンボ。
- 第1471号(7/5):久々の、せど裏山に、富士の顔。
- 第1472号(7/7):梅雨の間の、せど裏山に、駿河湾。
- 第1472号(7/7):昼散歩、孟宗竹に、初夏の風。
- 第1473号(7/8):梅雨の間に、世界の財が、顔を出す。
- 第1473号(7/8):里山の、稲の刈り取り、何時の日か。
- 第1474号(7/9):昼散歩、世界の美麗が、顔一つ。
- 第1475号(7/10):梅雨晴れて、孟宗林に初夏の彩。
- 第1476号(7/11)梅雨晴れて、水辺の古木、ヤンマ一種。
- 第1476号(7/11):水棲に、梅雨の間の、四季観。
- 第1477号(7/12):四季折りの、樹木トンネル、初夏の彩。

# 特別号外:Field Watching

## (Ⅱ):生きものたちと自然観察記録



G: 雉, H: サツキ, I: ショウジョウトンボ、

J: ハゲロトンボ、 K: オイカワ, L: キアゲハ

第1478号(7/14):梅雨晴れて、富士の姿は、初夏の彩。  
第1478号(7/14):梅雨曇り、せど裏山に、日の出彩。  
第1479号(7/15):せど裏に、台風一過、富士覗く。  
第1479号(7/15):昼散歩、四季折々の、竹林彩。

## 2014-(夏)

第1480号(7/16):昼散歩、せど裏山に、夏の富士。  
第1480号(7/16):昼散歩、せどのお山に、茶々の彩。  
第1481号(7/17):梅雨晴れて、久々の間に、初夏の富士。  
第1482号(7/18):清流の、青鷺二種の、ひとり立つち。  
第1483号(7/19)昼散歩、四季折々の、茶畑彩。  
第1484号(7/21)梅雨の間の、せど裏山に、富士の山。  
第1485号(7/22):梅雨明けて、せど裏山に、蝉の鳴き。  
第1485号(7/22)せど裏に、蝉の初鳴き、梅雨の明け。  
第1486号(7/23):里山の、ピオトプに、トンボ一種。  
第1487号(7/24):梅雨明けて、せど裏山に、蝉の鳴き。  
第1488号(7/25):夏見ても、富士の高峰は、世界一。  
第1489号(7/26):梅雨明けて、里山の池に、シオトンボ。  
第1490号(7/28):ピオトプ、枝の先には、トンボ一。  
第1491号(7/29):せど裏に、チュンチュンと、雀鳴く。  
第1492号(7/30):夏日射し、公園ベンチ、一休み。  
第1494号(8/1):せど裏に、シャンシャン鳴く、クマの蝉。  
第1494号(8/1):せど裏に、ガシャガシャ鳴く、クツワ虫  
第1495号(8/2):夏の入り、アサガオの彩、鮮やかな。  
第1496号(8/4):カミキリの、紅鮮やかな、夏の日に。  
第1495号(8/4):夏の日に、夢の懸け橋、寸又で。  
第1497号(8/5):梅雨明けて、せど裏山に、富士の顔。  
第1497号(8/5):清流の、産卵場へと、上り鮎。  
第1498号(8/6):水棲の、四季折々に、夏の彩。  
第1498号(8/6):夏休み、昆虫捕りの、子供たち。  
第1499号(8/7):早朝から、せど裏山で、蝉時雨。  
第1500号(8/8):せど裏の、四季折々の、景観彩。  
第1551号(8/11):せど裏の、富士の景観、夏模様。

第1502号(8/13):清流に、三十二種の、棲息種。  
第1504号(8/13):梅雨明け後、雲の間に見る、富士の山。  
第1504号(8/13):梅雨明け後、水辺の藻場に、ギンヤンマ。  
第1506号(8/15):背戸裏で、ジリジリと鳴く、アブラゼミ。  
第1508号(8/18):早朝から、せど裏山で、蟬時雨。  
第1510号(8/20):暦では、秋の入りも、残暑延び。  
第1511号(8/22):梅雨明け後、富士の山景、雲の中。  
第1512号(8/22)残暑どき、富士の高峰は、日本晴れ。

---

## 参考文献

- 1) 自然観察ハンドブック(2009):財団法人・日本自然保護協会
  - 2) 野鳥小図鑑(1987):東海大学出版会
  - 3) 日本の淡水魚(2000):図書印刷株式会社、学習研究社
  - 4) 里山図鑑(2009):(株)ポプラ社・おくやまへさし著
- 
- 5) 特別号外:Field Watching (I)富士山と自然観察記録
  - 6) 特別号外:Field Watching (II)生きものたちと自然観察記録
- 
- \*いわさきゆきのぶ NPO法人自然観察塾(塾長)、水棲&環境研究会